

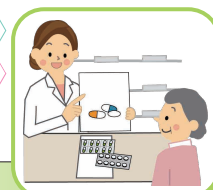
Leading center for the development and research of cancer medicine

ニュースレター

がん関連専門資格について

がんプロフェッショナル養成基盤推進プランでは、がん関連専門資格の取得を推奨しています。本号では、がん治療に関わる資格として、がん治療認定医の他、6つの資格についてご紹介いたします。

がん専門薬剤師



国立がん研究センター

研究支援センター 研究企画部 企画支援室 治験事務局 薬剤部 米村 雅人

がん専門薬剤師は、日本医療薬学会が認定するがん専門薬剤師資格であり、医療上、広告が可能な専門性に関する資格として平成22年5月14日に認められました。本資格は、高度化するがん医療の進歩に伴い、薬剤師の専門性を活かしたより良質かつ安全な医療を提供するという社会的要請に応えるため、がん薬物療法等について高度な知識・技術と臨床経験を備える薬剤師を養成し、国民の医療・健康・福祉に貢献することを目的としています。具体的な役割としては、抗がん剤治療計画(レジメン)の設計、エビデンスの確認、輸液や制吐剤などの支持療法の処方提案、薬物間相互作用の確認、内服状況の確認及び検査値等の変動を含めた副作用確認などが挙げられ、がん医療に精通した薬剤師として病院内でその技能が認められ、多岐にわたる貢献が求められています。

本資格を取得するためには、薬剤師としての5年以上の実務経験の他、日本病院薬剤師会、薬剤師認定認証機構等の認定薬剤師の資格取得、がん専門薬剤師研修施設での5年以上の研修歴、がん患者さんへの薬学的介入事例50症例の提出、試験の合格などが必要であり、本資格取得のためにはかなりの努力が必要となっています。これらの困難を超えたがん専門薬剤師は、現在437名(平成27年1月)まで増えており、がん薬物療法等を行っていく上で必要とされるチーム医療の一員として、それぞれの病院で活躍しています。

岩手医科大学 臨床薬剤学講座 講師(主任薬剤師) 佐藤 淳也

がん医療専門薬剤師の育成と期待

3大がん治療の1つである抗がん剤治療には、薬剤師の支援が必要不可欠です。これには安全性の観点のみならずチーム医療が推奨される点でも厚生労働省医政局長通知(医政発0430第1号)「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」にあるように薬剤師の積極的活用が医師の負担軽減につながるものと期待されており、ここでは薬剤師には、抗がん剤調製のみならずレジメン管理、服薬指導、副作用に対する支持療法の提案などがん医療で実現しやすい具体的活動が求められています。これらチーム医療を担える専門的薬剤師の育成のため、今から10年前がん専門薬剤師制度が発足しました。現在では認定母体も3つ(日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本臨床腫瘍薬学会)となり、現在約1400名のがん専門的薬剤師が全国で活躍しています。しかし、これは薬剤師全体からするとわずか0.5%、病院薬剤師全体からしてもわずか2.8%の薬剤師にすぎません。また、認定者の地域格差も大きく、地域医療では医療機関のがん医療に関するウエイトを勘案すると、まだまだがん専門的薬剤師が充足していないものと思われます。これには、認定要件のハードルの高さもありますが、根本的に指導薬剤師と研修施設の不足が指摘されており、つまり、認定要件に指導薬剤師の所属する研修施設あるいは一定のがん診療レベルを有する研修施設での研鑽が求められているからです。認定学会は、指導者、研修施設を認定することはあっても、これら指導者や施設を育成することはありません。がん専門薬剤師制度と前後して始まったがんプロフェッショナル養成プランには、先進的業務や臨床研究を牽引できる指導的薬剤師の育成やがん臨床業務を研修できる施設のレベルアップなど、専門的薬剤師を目指す人材に研鑽の場を提供することに大きく貢献している事業として、今後とも拡充が期待されます。

